

# 寺子屋だより

※題字／森川芳聲

## もくじ

- 2 巻頭言『春の訪づれ』……………山口 秀範
- 3 教育雑感⑨……………白濱 裕
- 4 偉人レポート……………竹川 千裕
- 6 橋を架ける⑥……………占部 賢志
- 8 ある若者のSNSより……………水崎 之子
- 9 鳥飼八幡宮―ゆかりの名士たち(第四回)  
神功皇后さま……………山内 圭司
- 10 TERAKOYAふおとれぼーと
- 11 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 12 碑のこころ(10) 編集余録



飯綱山

戸隠神社中社

碑のこころ

戸隠神社中社

長野市戸隠中社  
大鳥居横

# 春の訪づれ

代表世話役

山口 秀範

春近し

二月に入ると節分の豆まきから立春、建国記念日、天皇誕生日と日本ならではの国柄を自覚できる日々が続きます。それと共に梅が匂い始め寒さの合間で春の気配が次第に膨らんで来ます。日も長くなり生きとし生けるものが再生の力を恵まれる季節です。

春の生命力を歌った『万葉集』の次の一首はこの季節を象徴しています。

石はしる垂水の上のさ蕨の萌え出づる春になりけるかも(志貴皇子)

「垂水」は川底に段差があつて水が滝のようにほとばしり流れる箇所、そのほとりに早蕨が芽を出し始めている。長い冬に終わりを告げて待ちに待った春を迎える喜びに溢れた歌です。

師・生徒・親の心得

二月十七日に志明館入学説明会を開催しました。四月に二期生として入学する生徒たちの保護者を対象とした集まりです。先ずは「誇りと志を培い、日本で、世界で羽ばたく人財を輩出する」という理念の下に定めた「志明館師心得」「志明館友心得」「志明館親心得」について両親の認識・理解を求めました。

志明館の教師は「自らの生きる目標を高く掲げて人間力を磨きつつ、同志との切磋琢磨を怠らざるべし」との自覚を持ち、「館友(在校生のみならず卒業後もこう呼ぶ)それぞれの特質を見抜き可能性を引き出す助言者

となり、教え子たちと一生のつき合いを楽しむ」ことを目指します。

一方「館友」は「自国の歴史・伝統を正しく学び、美しき母国語を語る闊達な児童たれ」「自己の意思を隠せず表明し、相手の意見にも耳を傾ける情操豊かな生徒たれ」「健全な身体に鍛え上げ、万物と共生しつつ、公に向かう使命感溢れる青年たれ」と次第に成長し「卓越した学力・識見・豊かな感性を基盤とし、異文化への理解と敬意を湛え、日本の心を育んだ国際人たれ」と期待されています。

そして親には「子は親の鏡」と心得て自らが「ご先祖様を敬い、大自然に生かされていることに感謝して過ごす」と「発した言葉は人の心を左右するので、相手への敬意を込めた言葉遣いに努める」ように促し、「挨拶、返事、履き物揃え、手伝い」を習慣化して素直な子に育てることを家庭の役割と位置付けました。

改装を終えた校舎や寮の見学や入学式で全生徒が着る紋付き袴の披露など、開校を間近に控える高揚感が快晴の陽射しと共に会場を明るく包んでいました。準備に費やした十六年間も思われて次の一首が浮かびました。

梅咲きて水仙盛るこの日和志明館にも春の訪づれ

災難と隣り合わせの中で

新年早々多難な幕開けの中で私の行動はそれらと驚くほど関連しました。元日の夕暮れ時長野市郊外飯縄山麓の滞在地に突然アラート音が鳴り、同時に横揺れが来ました。その震動は長く続き床にバラバラと物が落ちる程で能登半島地震と後に判明しました。

翌日夕方、長野以北は運休中の新幹線でようやく

東京着、羽田から福岡行きに搭乗すると出発時刻を過ぎても動かず、やがて滑走路が火災との機内放送があつて全便キャンセルの事態に遭遇しました。

一月三日始発の新幹線で何とか福岡の所用に駆けつけ、一段落して聞いたニュースで小倉駅に近い鳥町食道街の火災を知りました。つい半月前に寺子屋の忘年会を開いた行きつけの店も全焼してしまいました。

それぞれの災難に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。連日災害を身近で感じた三賀日、一歩違えば被害の当事者になり得る予測不能な人生に「日々為すべきを為さん」と改めて思いを致しました。

一般参賀を受けられた天皇陛下のお言葉「(国民)一人一人にとつて、穏やかな春となるよう祈っております」に斉しく救われます。

前号で志明館開校に向けて折込チラシで最後のお願いを同封したところ、思いがけず多くの方々からお励ましの寄付を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。



志明館正門横の梅と水仙(2月初旬撮影)